紫青菱模様板締め メルトオフ・メタリック織物

1990年代

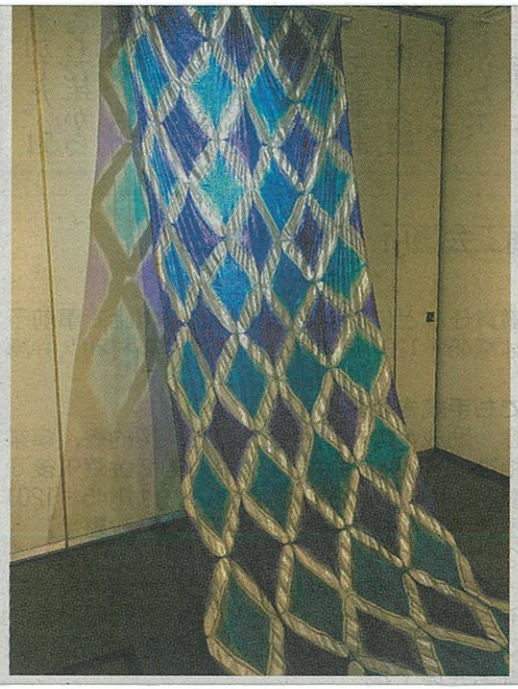
新井淳一（1932～2017年）

透け感のある紫と青に銀色のひし形がきらめく、なんともさわやかな作品です。

このひし形模様は「板締め」という手法で作られています。透明のフィルムにアルミを蒸着した糸で織った全面銀地の布を、じゃばら状に折り畳んで小さな板と板の間にきつく挟み、アルカリ溶液で煮ると、板に挟まれている部分は溶液が染みこまず銀地のまま、挟まれていない部分はアルミが溶けて透明になります。板で挟む部分や布の折り畳み方を調整することでひし形を生み出しているのです。

以前ご紹介した、糸のアルミを溶かす「メルトオフ」技法と伝統的な「板締め」技法が組み合わされています。さらに透明になった部分を紫や青に染めており、この部分が光を通すため、影がまるでステンドグラスのように美しく映っています。

「テキスタイル・プランナー新井淳一の仕事」展も残すところあと4日です。9月28日から10月9日までは展示替えのため臨時休館となります。（池田）



《名画の扉》 大川美術館企画展から